

国分教育ゼミナールってどんな塾？（番外編）

- * 国分駅から歩いて約2分、一階にローソンのあるビルの3階塾。
- * 鯉もナマズもスッポンも泳いでいる川の隣のビル。
- * 平成元年からこの3月まで清水にあって、やぎ塾とも呼ばれていた塾。（山羊塾ではありません。めえ〜）
- * 夏休みに、一泊の野外キャンプをして「自然の中で遊ぶ」も大事にしている塾。（中3希望者）
- * 1月の鏡開きで、無病息災を願って、塾長お手製のぜんざいを食べさせられる(?)塾。
- * 合格パーティーで、お手製のうんまかあたこ焼きが食べ放題の塾。
- * 開放的な空間でBGMが流れている塾。でも雑音も聞こえる塾。
- * 「静かすぎる環境より、適度な雑音の中の方が集中力が高まる」って言っている塾長の塾。
- * 「これ番外編です」とあえて確認したがるまじめな塾。本篇はHPをご覧ください。

室長紹介

四本崇（よつもとたかし）



- * もうおじさんなのに「ぴちぴちの42歳」って言って頑張っている室長。
- * 2歳の息子に、キックとパンチで起こされ、充実した朝を迎える室長。
- * そんな息子に、「いつもお布団あげありがとう」と感謝され、子どもの成長にジーンと感動している室長。
- * 菜の花マラソンを、完走、リタイア、出場断念と経験して「何でも経験は大事」とうそぶいている室長。
- * 庭の草取りをせずに、草野球に出かけてしまう室長。
- * 鶴丸高校野球部のOBで、「マスターズ甲子園」に出場してピッチャーゴロだった室長。（残念!）

‘自分の一番’ ‘自分の一番’は入塾してから過去最高の順位です。

H28			H27		
氏名 (中学校)	入塾前 順位	一番良か った順位	氏名 (中学校)	入塾前 順位	一番良か った順位
Aくん (旧当山)	4	1	aくん (隼人)	3	1
Bさん (国分)	24	9	bくん (隼人)	18	4
Cくん (旧当山)	17	10	cくん (隼人)	33	5
Dくん (隼人)	45	13	dさん (隼人)	29	6
Eさん (隼人)	58	14	eくん (隼人)	40	7
Fさん (旧当山)	37	14	fさん (隼人)	33	8
Gさん (隼人)	92	31	gくん (隼人)	14	9
Hさん (国分)	69	35	hさん (隼人)	102	11
Iさん (隼人)	100	52	iくん (隼人)	118	12
Jくん (隼人)	91	54	jくん (国分)	82	15
Kくん (国分)	117	61	kくん (隼人)	66	26
Lさん (隼人)	130	68	lさん (隼人)	153	40
Mさん (隼人)	157	72	mさん (隼人)	108	47
Nくん (隼人)	152	98	nさん (隼人)	131	68

上記以外の多くの生徒も‘自分の一番’を更新しました。

星の瞬き（かみのけ座）

ゼミブログの中で色々な星座について紹介してきました。今回は、少し変わった星座「かみのけ座」を紹介します。



古代エジプト、プトレマイオス朝の王であるプトレマイオス3世の王妃ベレニケ2世は、夫が戦から無事に戻ってきたら自分の髪の毛を美の女神アフロディテに捧げると誓いを立てる。その後、夫が無事に戦から戻ってこられたので誓い通り髪の毛を切り、アフロディテの神殿に捧げた。

ところが翌朝、供えたはずの髪の毛が神殿から消えていた。王と王妃はこの不始末に激怒する。仕えていた神官たちは死を覚悟した。そのとき、宮廷づきの天文学者コノンが、女神は王妃の美しい髪の毛が捧げられたことに喜び、天に上げて星座にしたのだと告げた。そして、夜空に浮かぶしし座の尾のあたりを示した。

これ以降、夜空のこの位置は「ベレニケのかみのけ座」と呼ばれるようになった。コノンのとっさの知恵により神官たちの命が救われた。

周りに人工の明かりがなかった時代、星々は今よりもっと多くのものを人間に見せてくれていたのかもしれない。（内村）

今月の合言葉

為せば成る 為さねば成らぬ何事も
成らぬは人の為さぬなりけり



（上杉氏家紋）

何事もやってみないで「できない」理由を並べる人がいる。

「できる」か「できない」かはやってみなければわからないじゃないか。たとえやってみてできなかったとしても、次に進むべき道が必ず見えてくるものなんだ。先ずは行動することが大事。そして一心不乱でやれば、思いのほか事は成就(じょうじゅ)するものだ。

（江戸時代後期、米沢藩主上杉鷹山(うえずぎようざん)の言葉)

座・閑話

水無月



水無月は、水の無い月ではなく、「無」は「の」の意味で「水の月」。その由来は、田に水を引く月であるとのこと。

もうしばらくすると田植えのために水を引かなければならない。その下準備もあって、昨日、田んぼに出かけて行った。作業中の泥水の中では、オタマジャクシ、カエル、イモリ、そして沢ガニが活発に動いていた。沢ガニがミミズをくわえている光景には、何だか童心に帰った気分で見ている自分がいた。これからしばらくすると、マムシも動き出す。毎年必ず草刈機の犠牲になるが、マムシだけに、まあ無視できない存在だ。注意して田の作業にあたらなければならない。

自然が正常であってこそ、私たち人間も自然から恵みを頂ける。

水無月は、田の生き物皆の月（皆月）でもあるかな？

（めーめー子ヤギ）

